

1 運営協議会の開催状況 ※ひとつづくりネットワークと共催ではなく単独で開催した学校運営協議会についても記載

回数	月日 (曜)	参加者数	議事内容 (テーマ・話題)	会の持ち方の工夫、成果・課題 等
第1回	5/31 (金)	10名	事業説明 令和6年度 of 取組方針の確認	木之子地区子どもと歩む会正副会長会と日程調整して開催
第2回	6/11 (火)	13名	事業説明 木之子小学校学校経営方針等の確認	第1回学校運営協議会 参観日と同日開催 (授業参観前に開催)
第3回	12/12 (火)	11名	中間期の反省 (学校評価アンケート) 地域等連携した学校教育活動の検討	第2回学校運営協議会 「しめ縄づくり・とんど実行委員会」 (臨時会) と同日開催
第4回	2/21 (金)	9名	今年度のふりかえり (学校アンケート) 次年度の経営方針について	第3回学校運営協議会 本年度取組報告と来年度の学校経営方針の確認
第5回	/ ()	名		

2 懇談会の開催状況

回数	月日 (曜)	参加者数 [主な所属 (内訳)]	議事内容 (テーマ・話題)	会の持ち方の工夫、成果・課題 等
第1回	7/29 (月)	30名 学校運営協議会 子どもと歩む会 教職員 保護者等	木之子地区各種団体活動紹介 地域で目指す子ども像の実現について の熟議	木之子地区の各種団体代表者や教職員、保護者等が一堂に集 い、研修を深めるとともに、お互いの立場から意見交換をし た。
第2回	3/21 (金)	28名予定 [子どもと歩 む会]	めざす子ども像の反省とコーディネ ーターとの連携強化、活動内容の検討	子どもと歩む会役員会と同日開催予定。今年度の取組報告と めざす子ども像の反省及び来年度の活動の方向性の検討。
第3回	/ ()	名 []		

3 めざす子ども像 (地域像、学校像、家庭像等)

- 元気な笑顔であいさつができる子
- 相手を思いやり、認め合える、自分の言動に責任がもてる子
- 我が町木之子を愛し、未来への希望を持ち、何事にも高い意欲で取り組める子

4 めざす子ども像の実現に向けた地域学校協働活動のアイデア

・地域団体の活動を地域・家庭・学校が一体となつて、めざす子ども像の具現化を図る。例えば地域コーディネーターと学校は、打合せ時には、めざす子ども像を確認し、活動に生かすようにしている。

5 地域学校協働活動の実施に係る主な連携及び支援団体

木之子地区子どもと歩む会 (青少年を育てる会) 木之子公民館
木之子振興協議会 (まちづくり協議会) 馬越恭平顕彰会
木小幼PTA 注連縄とんど実行委員会 木之子自治連合会 等

◆めざす子ども像（地域像、学校像、家庭像等）

- 元気な笑顔であいさつができる子
- 相手を思いやり、認め合える、自分の言動に責任がもてる子
- 我が町木之子を愛し、未来への希望を持ち、何事にも高い意欲で取り組める子

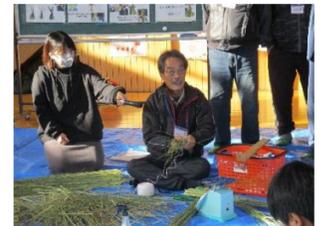
◆活動の様子



1年生 生活科 昔遊びを覚えてもらい、全力でTryした。



地域活動
とんど祭に向かって、青田刈り、わら集め、しめ縄づくり、やぐら作り、習字の掲示などの準備を計画的に行う。見て、教わって、自分でやってみて...様々な経験ができた。



2年生 生活科
学級園にさつまいもを植えた。秋には育てたいもを公民館で多くのボランティアの方と一緒に調理し、「おいもパーティー」を開いた。

5年生
総合的な学習の時間
稲の植え方、育てるときのこつ、稲刈りなどを1年間を通して細かく教わる。感謝の気持ちを伝える会も実施した。



6年生 Anclsプログラム
水松豊さんを講師に迎え、ラーメン店「一松」を運営するに至った人生の歩み方を教わり、自分自身の生き方について考えることができた。



5・6年生
家庭科
ミシン実習補助
地域ボランティアの方に教わった。



全校
クリーン作戦
落ち葉の集め方、草の取り方などのコツを教わりながら、地域の方々と交流を深めた。



※市内の施設見学に地域コーディネーターが参加し、学習の様子を見ながら、児童への助言をするなど交流することができた。

◆成果（○）・課題（△）・来年度に向けて（☆）

- 地域コーディネーターの方を核として、学習の補助をお願いするとすぐにボランティアの方が集まってくださる体制ができている。
- 木之子地区振興協議会や子どもと歩む会など、様々な団体と協働しながら様々な体験活動が展開できている。
- 担任や校内の担当者により、児童が地域の方の名前を覚えたり、近所の方が地域や木之子の子どもたちのために真剣に取り組んでいることに気づいたりすることができている。
- △めざす子ども像の具現化のため、今後も引き続き協議できるようにしていきたいが、熟議などの機会がもちにくい。
- ☆それぞれの学習活動や地域行事が連動しながら単発ではなく、ストーリー性をもって展開できるよう、教育課程を編成していく必要がある。